



男女共同参画コラム

ひな祭りに寄せて *

2020年2月4日に迎えた立春。明るさを増していく陽の光は、縮こまっていたカラダも伸びやかにさせますし、「春が立つ」という言葉は「何か始めようか」と心のスイッチも入るような格別の言葉です。

そして、立春の次には3月3日のひな祭り。女児の健やかな成長と幸せを願う祭事です。女の子の初節句のお祝いにひな人形を贈ったり飾られるご家庭も多いと思います。

同じく3月の8日は世界女性デーです。世界を見渡すと、必ずしも女児が生まれたお祝いができる状況ではありません。

1日あたり808人の女性が妊娠・出産によって命を落としているという現状もあります。すべての女性が安全に妊娠・出産を迎え命が守られる世界をめざした「ホワイトリボン運動」が世界女性デーにちなんで日本でも展開されています。

白いリボンには、妊娠や出産によりなくなった女性たちへの哀悼の意が込められているそうです。

また、女児の健やかな成長を妨げる課題に暴力とハラスメントの根絶があります。

「私も」を意味する「Me Too」は、2017年にハリウッド女優がセクハラ被害をSNSで訴えたことをきっかけに日本も含めて世界的に広まりました。

世界的に広がりを見せた暴力やハラスメントの課題はその根絶がいかに困難であるかという事と、人々の意識や態度を変えていく取組みを根気強く継続していくことの重要性を物語っています。

毎年、成人式に「デートDV防止に向けたリーフレット」を市女性会の皆様と夕陽丘基金と私どもの財団の3者で配布させていただいているのも、その地道な取り組みの一つと言えます。

女児の健やかな成長と幸せを心から願って、その大きな妨げとなる課題解決の道筋を本年も一緒に歩んでいきましょう。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会
企画調整課長 沢田 薫

夕陽丘基金へのご協力、いつもありがとうございます！

平成30年度には夕陽丘基金への寄付総額 1,111,268円のうち、各区女性会から「夕陽丘募金」として、合計18件 227,053円のご寄付をいただきました。



〈活用例〉 ●保護命令の申請に要する費用（切手代、収入印紙など）

- 一緒に連れてきた赤ちゃんや幼児の着替え、おむつなど育児用品の購入費用
- 仕事や家庭を探す時の交通費、ケガや病気の治療費 などに使われています。

〈平成30年度の実績〉

- 緊急一時保護施設入所のDV被害当事者への資金貸付
31件 260,500円（生活費 202,000円、交通費 19,000円、各種手続き 39,500円）

夕陽丘基金は、平成16年3月に市女性会が中心となって設立されました。すべての市民の皆様一人ひとりの募金から成り立ち、DV根絶をめざし、被害者の方が一日も早く再出発ができるようにという願いをこめた募金です。

夕陽丘基金ホームページ <http://danjo.osaka.jp/yuhigaokakikin/index.html>



これからも夕陽丘募金を通じたご支援をよろしくお願いします！

大阪市女性会だより ～地域で輝く女性会～



新たなステージに向かって バトンをつないでいきましょう

このリーフレットもはや5号となりました。

昨年は大阪市地域女性団体協議会結成70周年という記念の年でございました。

10月に開催された大阪市女性大会では松井大阪市長様、各区区長様、市会議員の皆様、関係団体の皆様など、多くの皆さんにご臨席を賜り、記念の年を祝うことができました。あらためて御礼申しあげます。

市女性会は、昨年も市内の各所で、男女共同参画やワークライフバランス、女性に対する暴力をなくす運動など、さまざまな啓発活動やキャンペーンに取り組みました。

6月にはG20大阪サミットにあわせて来日されたUNウィメン事務局長との交流会、12月には女子差別撤廃委員会委員の皆さんとの交流会にも参加し、ご来賓の方々をはじめ、関西で活躍されている各種団体の皆様に対して、市女性会の活動を紹介して交流する機会を得ることができました。

こうした新たな活動への参加の機会に、あらためて私たちの原点である青少年の健全育成、男女共同参画の学習と実践の活動を深めていくことの大切さを実感いたしました。

70周年記念の「大阪市女性大会」では、各区の代表が民踊やフラダンス、詩吟を披露し、最後に各区の代表がひとつになって「河内おとこ節」

を踊りました。これは1970年の大阪万博の折に、私たちの先輩方が「太陽の塔」の前で民踊を踊っている当時の「婦人大阪」の写真に勇気をもらい、ぜひ70周年の女性大会では、各区の女性会が日頃の成果を披露したいという意見に多数の理事が賛成し、実現したものでした。

当日、満員の会場は大いに盛り上がり、壇上の会員も客席の会員も、市女性会として一体となつた様子を見て、私は会長として大きな感銘を受けました。

今年は、子年です。子年は十二支のはじめにあたり、草木の生命をはじめとした「命が誕生しようとする」という意味もあります。また、相場格言では「繁栄」の年といわれています。

70周年を終え、市女性会も4月には新たな役員による新体制のもと、次のスタートを切ることになります。先輩の皆さんから受け継いだこれまでの実績を、リレーのバトンのように次の時代に繋げることが私たちの役割かと存じます。

市女性会にとって新たなスタートとなるこの1年が、より充実したものとなるよう、会員全員が協力して日々の活動を広げてまいりたいと思います。

引き続き皆様のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申しあげます。